

# 大学運動部員のエンゲイジメント及び

## 指導者との関係性が

### 部員のフォロワーシップに及ぼす影響についての研究

スポーツ経営組織学ゼミナール 1316062 松田 大歩

#### 1. 研究動機・研究目的

部活動において、指導者との対人関係がストレスサーとして働くことがある(渋谷、2001)。一方、対人関係が選手のやる気を芽生えさせ、熱心に競技に取り組ませることに繋がる。この、やる気や熱意に関連する概念として、ワーク・エンゲイジメントがある。ワーク・エンゲイジメントの高い人は、仕事に誇り(やりがい)を感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得て生き生きとしている(島津、2015)。

また、リーダー(指導者)とフォロワー(選手)の関係については、西之坊・古田(2013)がフォロワーシップという言葉を用いており、「組織のゴールをリーダーと共有し、フォロワーがそのゴールに向かって行動することで直接的または間接的にリーダーや組織に対して発揮される影響力」と定義している。このフォロワーの能動性は、指導者と如何にして良好なコミュニケーションを取り、信頼関係を築けるかにおいて重要であると思われる。指導者と選手の関係性について Jowett and Ntoumanis (2004) は、「指導者と選手の感情、思考、行動が相互に影響し合っていて結びついている状態」と定義している。この定義に基づくと、指導者と選手の関係性をとらえる際に指導者の行動面のみに焦点を当てるだけでは不十分であり、選手の感情面や思考面についても視野に入れる必要があるといえる。

そこで本研究では、大学運動部員を対象に、部員のエンゲイジメントと指導者との関係性が、フォロワーシップに及ぼす影響について検討する。

#### 2. 研究方法

2019年11月1日から11月17日にかけて、J大学に在籍し運動部に所属している1年生から4年生の204人(男性170人、女性34人、平均年齢20.1歳、SD=1.18)(年齢問わず)を対象に調査を行なった。

本研究では、質問紙調査法として、フェイスシートに加えて「日本語版ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度短縮版(The Japanese Short Version of the Utrecht Work Engagement Scale: UWES-J)」、「CART-Q 日本語版(The Coach-Athlete Relationship Questionnaire)」、「日本版フォロワーシップ尺度」を使用した。

#### 3. 主な結果と考察

日本語版ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度短縮版(全体の平均点)と日本版フォロワーシップ尺度(全体の平均点)における相関分析の結果、弱い相関が認められた。この要因としては、島津(2015)が「エンゲイジメントが高いほど自己啓発学習への動機づけ

や創造性が高く、役割行動や役割以外の行動を積極的に行う」と述べていることから、エンゲイジメントが高い部員ほど、組織や指導者に対して強い影響力を発揮する(西之坊・古田、2013)のではないかと考える。

次に、CART-Q 日本語版(全体の平均点)と日本版フォロワーシップ尺度(全体の平均点)における相関分析の結果、中程度の相関が認められた。西之坊・古田(2013)は、フォロワーシップを「組織のゴールをリーダーと共有し、フォロワーがそのゴールに向かって行動することで直接的または間接的にリーダーや組織に対して発揮される影響力」と定義している。これを踏まえると、指導者と良好な関係を築くことで意見共有をし、目標を達成するために指導者へ自律的支援を行なうのではないかと考える。

そして、日本語版ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度短縮版(全体の平均点)とCART-Q 日本語版(全体の平均点)における相関分析の結果、弱い相関が認められた。島津(2015)によれば、「エンゲイジメントは上司や同僚からの支援が豊富なほど上昇する」ため、指導者との関係性が良好なほど支援を得ることができ、エンゲイジメントが上昇するのではないかと考える。

#### 4. 結論

本研究によって、以下のことが明らかになった。

- ・部員のエンゲイジメントとフォロワーシップでは、「没頭」と「配慮的行動」の間のみ相関が認められず、それ以外の間で中程度もしくは弱い相関が認められた。よって、作業仮説Ⅰ,Ⅱは支持され、Ⅲは部分的に支持された。

- ・指導者との関係性とフォロワーシップでは、「関わり」「親密さ」と「積極的行動」「配慮的行動」、「相補性」と「積極的行動」の間で中程度の相関、「関わり」「親密さ」「相補性」と「批判的行動」、「相補性」と「配慮的行動」の間で弱い相関が認められた。よって、作業仮説Ⅳ,Ⅴ,Ⅵは支持された。

- ・選手のエンゲイジメントと指導者との関係性では、「熱意」と「関わり」の間で中程度の相関が、それ以外の間で弱い相関が認められた。よって、作業仮説Ⅶ,Ⅷ,Ⅸは支持された。

- ・フォロワーシップにおいて、選手のエンゲイジメントを高めるのは「積極的行動」が強く発揮された場合である。

- ・フォロワーシップにおいて、指導者との関係性を高めるのは「積極的行動」が強く発揮された場合である。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

今回の卒業論文は、自分自身が大学生活や就職活動などを通じて痛切に感じたことをテーマに執筆させていただきました。始動が遅くなってしまったことでサンプル数や考察の深さなどいくつかの課題が出てきましたが、周りの方々のご協力のおかげで無事完成させることができました。誠にありがとうございました。卒業し社会人になっても、この4年間で身に付けたもの、感じたものを大切にしていきたいと思えます。